

現地調査（福島県）報告

令和8年7月2日

視察行程等

● 実施日

令和8年5月14日（木）

● 訪問先

福島県田村市、大熊町、双葉町、浪江町

● 行程

- ① キウイの国／株式会社ReFruits
- ② とみおかワイナリーにて昼食
- ③ 中間貯蔵施設
- ④ J R 双葉駅周辺
- ⑤ 福島県復興祈念公園
- ⑥ 福島国際研究教育機構
- ⑦ 阿武隈風力発電所

※ 車中において、総括WG報告における「今後の課題」について、主な取組の状況を復興庁から報告。
（参照：参考資料）



結果概要

① キウイの国／株式会社ReFruits

<概要>

大熊町のキウイ再生から、日本の果樹産業を次世代につなぐ果樹生産モデルの確立に取り組んでいる同社から説明を聴取し、意見交換を実施。

<主な内容>

- 震災前、キウイを特産品とした大熊町の再生に向け、県外からの若年移住者によって起業。
- 品種改良、生産、追熟、販売の全てを自社で行う、国内では他に例がない専門のキウイ屋として、高品質のキウイ提供を目指す。
- 未収益期間があるのが、果樹産業の難しいところ。



▲キウイの国における意見交換



▲▼中間貯蔵の視察



② 中間貯蔵施設

<概要>

CREVAおおくま内の中間貯蔵事業情報センターにおいて、中間貯蔵事業、復興再生利用及び県外最終処分を始めとする取組について説明を聴取した後、中間貯蔵施設内を視察。

<主な内容>

- 約1,600haという広大な区域であり、福島県、大熊町、双葉町に苦渋の決断の下、受け入れていただいた。
- 復興再生土の利用や、風評被害払拭も含めた全国的な理解情勢が課題であり、取組を強化していく必要がある。

結果概要

③ 双葉駅周辺（特定復興再生拠点区域関係）

<概要>

特定復興再生拠点区域における復興の状況について、復興推進委員会では定点観測的に視察を行っている。本年においても双葉駅前周辺を中心に、バス車内から視察。

<主な内容>

- 双葉町の復興状況について。
- 双葉駅前通り周辺のまちの拠点づくりについて。



▲双葉駅周辺（令和7年8月に開店したイオン双葉店前）

④ 福島県復興祈念公園

<概要>

東日本大震災による犠牲者への追悼と鎮魂や、復興の歩み等を国内外に向け発信し続けることを目的に、福島県と国との連携のもと本年5月2日に開園した同施設を視察。

<主な内容>

- 日常的で温かみのある木質のエントランス空間と、コンクリート主体の静謐な祈りの空間で構成されており、来訪者がそれぞれの空間で光や風、音、気候などの自然と対峙しながら、震災における福島での出来事や、現在、未来について思索する空間を形成。
- 緑が広がるなだらかな丘の上には献花台があり、津波の押し寄せた海や、公園周辺の震災遺構、復興が進むまちや水田などを望む。



▲▼福島県復興祈念公園



結果概要

⑤ 福島国際研究教育機構

<概要>

福島国際研究教育機構の施設整備状況について、本年度より本部施設棟の本格的な敷地造成工事に着手しているところ、進捗を確認。

<主な事項>

- 同施設の施設整備状況やスケジュールについて。



▲▼阿武隈風力発電所の意見交換

⑥ 阿武隈風力発電所

<概要>

「再生可能エネルギー先駆けの地ふくしま」の象徴的なプロジェクトであり、国内最大の陸上風力発電所として令和7年4月から営業運転を開始した同施設について、産業振興による復興や地域共生の取組についての説明を聴取するとともに、意見交換を実施。

<主な事項>

- 浜通り地域における社会的インフラとして、電力の安定供給の実現や、その基盤として地元地域と一体となった専門人材の確保・育成体制の構築が大切。
- 発電所員を地域で直接雇用し、地元業者との協力等、事業を持続的・安定的に運営していくため、「地域貢献」をしながら産業の育成・発展を目指していく。
- 復興事業による送電網整備支援等、行政等による事業周辺環境の支援・整備が重要であった。

